



新しい命の誕生にふれて

臨時休校中の4月28日深夜、雌ヤギのさくらは、2匹のヤギを産みました。少し小さめだけれどやんちゃな姉。体が大きく人懐っこい弟。

臨時休校中ということもあり、学級全員で見守ることはできませんでした。しかし、オンラインを駆使しながら、母ヤギのさくらが新たな命と懸命に向き合う場面、そこに立ち合うことができました。いつものさくらと違い、苦しそうなうめき声を何度も上げる姿、立ったり座ったりを繰り返す姿、それらの姿に子どもたちは母として生き始めたさくらを垣間見たのではないのでしょうか。



名前決めを通して

臨時休校中、子どもたちは、それぞれに自分の名前の由来や、自分たちの小さかった時のことをおうちの方々に聞きました。また、赤ちゃんの名前への思い、実際に名前を考えてみることを通して、赤ちゃんとのこれからの生活に期待を抱いての学校再開となるはずでした。

しかし、みんなで思いを語り合えば語り合うほどに、一人一人の確かな思いにふれ、逆に名前を決めるということの難しさを痛感する時間となってしまったようにも感じました。

けれども、子どもたちは、たった一人の子どもの思いであっても、そこにあるこの子の思いを大事にしながら、粘り強く話し合いを重ねていく姿がありました。グループで考えたり、全体で考えたり、一人一人で思いを綴ったり、そして、何度も赤ちゃんへの思いを共有したりすることで、姉の名前を「優(ゆう)」に決め出しました。

弟の名前もいよいよか…と思ったのですが、最後は「守(まもる)」「命(めい)」「心(こころ)」「心(しん)」の中から選ぶことにしました。

弟の名前が「心(こころ)」に決まった瞬間、しばらくの間、教室の中は静まりかえっていました。自分の考えをぐっと「のみこんだ」仲間のことを思えば、声を上げて喜ぶことをあえてしなかった子どもたちがいたように思いました。『最後までやったかいがあった。』『2か月の話し合いが、1週間のように感じた。』と綴った子どもたちの言葉。時間はかかっても、ムダな時間と一見思えても、その時間こそが大事だったのかもしれない。

姉と弟を合わせて「優しい心」とつながりのある名前、本当にそうやっていくかは、これからの生活次第ですね…。楽しみです。

